



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第12回例会(10月5日)
平成30年10月12日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10 会 長 坂本広行
川徳デパート内 幹 事 藤村吉隆
例 会 場 同上 TEL 019 (651) 1111代 会 報 吉田幸一
例 会 日 毎週金曜日12時30分~ クラブ事務局 TEL 019 (653) 5682
http://www.morioka-rc.jp/ FAX 019 (653) 5622

RI会長テーマ BE THE INSPIRATION:インスピレーションになろう…バリー・ラシン
盛岡RC会長テーマ -80年の歴史と伝統、繋いでいこう奉仕と友情-坂本広行



会員卓話

～ロータリー徒然なるままに～ (盛岡の2人の人物像)

下道 利幸 君

1. はじめに

貴重な時間を与えていただき、ありがとうございます。
(これは本心です。)

聴いても無駄だった、と思われたいことを祈りつつ、笑顔と笑声をもってお話しさせていただきます。

私は、高校卒業までこれでも野球少年でした。本を読むことも厭わないで、例えば人物評伝とか、歴史物が好きでありました。本をもっと読むことと、もう少し勉強をしてみたい、高校まで一夜漬けの勉強しかしていなかったと思ひまして、それも法律を勉強してみよう、してみたい、と思ひました。

2. しかし、それまでの不勉強が祟ったのか、まるで読み進めなかったことを覚えております。(四宮和夫・東大教授著の民法総則は、とても読み進めず、途中で放棄した。)

それでも、あるとき「目的は正しくとも、手段を選べ」という、法諺に出会いました。これを読みまして、いいことを云うもんだ、と感じ入ったことを正直覚えております。死刑制度を存置するとしても(目的)、その執行方法(手段)が、いたずらに受刑者に死の恐怖を与えたり、痛みを伴ったり、あるいは公衆の面前で執行したりしてはいけない、という例が挙げられております。

そして、これは日常生活でも、目的の部分ではなく、手段の面で争い事とか論争になることがとても多いと感じて居ります。この法諺は使えるし、深い真理が隠されている、のではとも考えましたし、今でも思索の対象としております。

ロータリーに目を転じますと、この「四つのテスト」はやはり素晴らしい標語、教えではないか、と思っておりますが、2の「みんなに公平か」、以下、やはり先ほどの「手段」に関する教え、教訓ではないか、と思っております。この「四つのテスト」のすごいところは、「目的」に関する部分である、「真実かどうか」を最初にもってきたところだと思います。やはり、正しいこと、妥当であることをまずもって第一に大事に考えよ、これが前提である、ということだと思います。

3. 又々盛岡市本宮の先人記念館に目を転じますと、那珂通世という東洋史学者、そして、日本古代史研究者が顕彰されております。旧姓は、藤村で、頭脳明晰なる故だと思ひますが、やはり先人記念館に顕彰されております那珂道高という人物の養子になっております。

明治36年5月、日光華嚴の滝に投身自殺した旧姓一高生・藤村操(北海道出身)は甥であります。

わずか16歳のできごとです。有名な「巖頭之

感」という遺書を、傍らのミズナラの木に彫って残しております。

巖頭之感

悠々たる哉天壤、燎々たる哉古今、
 五尺の小軀を以て此大をはからむとす。
 ホレーショの哲学竟に何等ののオーソリティー
 を償するものぞ。
 萬有の真相は唯一言にして悉す、
 曰く、「不可解」。
 我この恨みを懐いて煩悶、
 終に死を決するに至る。
 既に巖頭に立つに及んで、
 胸中何等の不安あるなし。
 始めて知る、
 大なる悲観は大なる樂觀に一致するを。

藤村操という人物の父は、盛岡出身で北海道で成功を修め、祖父は盛岡藩士であった、とのこと
 です。よもや盛岡ゆかりの人物とは知りませんでした。
 まして、那珂通世の甥とは知りませんでした。
 那珂通世(1851～1908)(嘉永4年～明治41年)
 のある功績を紹介したいと思いつつ、遠回りしま
 した。

ある功績とは、紀元前660年が初代天皇とされ
 る神武天皇即位の年と考えられているが、それは
 なぜか、というなぞを解明した、あるいはひとつ
 の納得する道筋を付けた、ということです。しか
 も弱冠二十歳ころの解明・提唱のようです。

そのへんの解説をした文章を読んでもみます。

・・・『日本書紀』の神武天皇即位の年の記述
 には、元号も西暦もなく、干支が使われている。
 その記述を丹念に追いかけて、計算すると即位年は
 紀元前660年にあたる。

だが、なぜ紀元前660年が神武天皇即位の年と
 考えられているかを答えられる人はそう多くはな
 いのではないか。

明治時代のはじめに那珂通世という偉い学者が
 いた。『日本書紀』には西暦も元号もなく、神武

天皇即位が記されるわけだが、那珂先生は後漢の
 鄭玄(127～200)の易についての研究をもとに
 この謎に挑んだ。干支は「甲子」から「癸亥」ま
 で六十通りあるが、このうち「辛酉」の年には革
 命が起き、さらに21×60=1260年ごとの「辛酉」
 の年には大革命が起きる、と鄭玄は考えた。(こ
 れを、識緯説という。－下道)

これを那珂先生は、日本の歴史にあてはめた。
 すると、推古天皇9年(601年)が辛酉にあたるが、
 日本という国にとっては聖徳太子が活躍していた
 この辛酉こそが、大革命年だったに違いない。そ
 うすると、その1260年前、これまた大革命の年だ
 が、神武天皇が即位し、「天皇」が誕生したのは
 このときを措いてほかにあるまい。かくて旧暦の
 紀元前660年の正月1日、新暦にして2月11日が
 日本国の始まりと意識され、紀元節が生まれた、
 というわけ(である)・・・。

(かくて、紀元2600年が1940年(昭和15年)に
 あたることになり、この年製造された戦闘機が0
 式戦闘機、即ちゼロ戦と命名されたのは、有名な
 話し。－下道)

キーワードは、干支と、そのなかの「辛酉」の
 年をどのように考えるか、ではないかと思えます。

先ほど弱冠二十歳ころの提唱のようである、と
 云いましたが、これは明治政府が紀元前660年を
 初代天皇・神武天皇即位の年とする、とした明治
 5年(1872年)の勅語が発布されたからです。「紀
 元二千六百年式典ノ勅語」というものがそれです。

以上の本源のネタがどこからきているのか、も
 うお気づきの方もおられる、と思えますが、今は
 ときめく、本郷和人東大教授の文藝春秋平成30年
 4月号「日本史語り、東へ西へ」から得ておりま
 す。本郷先生には、心から感謝申し上げたい、と
 思います。

4. 南部利昭ガバナー時代のこと

私は、あるロータリークラブで幹事と会長を務
 めていたことがありました。この幹事と会長のと

きのガバナーが南部利昭氏であります。即ち、南部ガバナー時代は2度ありました（次期ガバナー予定者の急逝によって）。それで、2度親しく1年ずつお付き合いさせて戴きました。（この時の地区代表幹事は、小川惇パストガバナーでした。）

このことを事務局の山上さんがお調べになって、その思い出を話したらどうか、ということで、是非もない、となったわけであります。その思い出を回想して参りたい、と存じます。

①公式訪問後、仲間の会員とともに南部ガバナーを夜の街にお誘いした事。

その頃のガバナー公式訪問は、夜でした。それで、前日の軽米クラブの公式訪問が終了され、翌朝お迎えにあがりましたが、どうもあまりご機嫌がよろしいようではありません。そこで、ガバナーとお話してから一生懸命付度を試みましてところ、やはりあれ（夜の街）のようでした。

そこで、全日程が終わりましたところで、当時はやっておりましたダンスもできる賑やかなスナックに向かった訳であります。歌ったり、ダンスをされたり、と前夜の鬱憤^{うっぷん}を果たされておられたようでした。（余は満足である、と申されたかどうか、は定かではありません。）

②1999年～2000年度の会長を務めたとき、21世紀はいつからか、という議論がロータリー会員でもありました。私は、断然2000年1月1日午前0時である2000年派でしたが、2001年1月1日午前0時であるとする2001年派もあり、決め手も見つけられずにいたことから、2000年1月頃であったと思いますが、南部ガバナーとお話しをする機会があったとき、このことをお尋ねしたことがありました。そうしましたら、2001年派でありました。なおも私は食い下がり、「12月31日の紅白歌合戦が終わり、やや以て午前0時になると、新年のあいさつを交わすし、0から始まると、10で新たな0が始まるのであれば、2000年派が正しいのでは、・・・」と申し上げたところ、（だまらっしゃ

い、これは君命である。）とは、申されませんでした。何か確たる根拠をお持ちの体でありましたが、それ以上はお話しされませんでした。2001年派である固い信念をお持ちのようでした。それで、この議論は一気に終息となりました。

③最後に、南部家のご当主は、なぜお名前の一字にのぎへんの「利」を用いるのか、をやはり何かの席で恐る恐るお尋ねしたことが有ります。加賀藩主前田利家に御恩を懐いてのことである、と申しました。

その御恩とは、豊臣秀吉の小田原評定（ひょうじょう）に、南部利直公が遅れて参陣したことから、前田利家にその取りなしをお願いして、そのことが功を奏し、無事領土安堵となったのであります。

ではなぜ小田原評定に遅れたのかですが、これは九戸政実の乱に手を焼いていて、参陣が遅れたのであります。

ご静聴ありがとうございます。

例会報告

第12回例会
平成30年10月5日(金)

12時30分 開会点鐘

- ・司会 坂本広行会長
- ・国歌 君が代
- ・ロータリーソング (奉仕の理想)
- ・会長報告 坂本広行会長
- ・入会祝 村井研一郎君
- ・誕生祝 盛田洋太郎君・榎崎憲二君・佐々木憲明君・岡村 弥君
- ・結婚祝 榎崎憲二君・岡村 弥君・吉田幸一君・駒木 進君・長谷川久晃君・中村芳樹君・土屋克之君・坂本広行君
- ・幹事報告 藤村吉隆幹事
- ・終了後定例理事会開催
- ・委員会報告
- 職場訪問・秋の懇親会の一部変更について
- 職場訪問バス乗車時間変更
- 15:00 → 15:30
- 懇親会会場変更
- メトロ本館 → ニューウィング
11階ギャラクシー

【ニコニコBOX】

◆平野佳則君…10月3日水曜日
2017-2018年度会計報告完了いたしました。最後にニコニコさせていただきます。

平成21年10月入会以来、8年9ヵ月間皆様に大変お世話になりました。思い起こせば9年前、平井烈^{ひら}会員に強く誘われ盛岡ロータリークラブに入会いたしました。入会前には、平井さん以外にも多くの方からお誘いを受けておりました。ロータリークラブに入会する時は盛岡RCにしようと考えその通り入会いたしました。たいしたことではありませんが、在籍期間中は、メイクアップ含めて皆出席を達成いたしました。会員であるからには皆出席しようと思い、そこだけは拘っておりました。

会員の皆様と交流させて頂き山の楽しい思い出があります。皆様、公私にわたりご指導いただきありがとうございます。いろいろなお会いする時も多いと思います。会員ではありませんが遠くからでも手を振っていただきたくお願いいたします。

結びに、盛岡ロータリークラブ

のご隆盛と、2018-2019年度は、田中堯史ガバナー、坂本広行会長の下、会員の皆様が世界の久遠の平和に貢献されますことを心より祈念申し上げ、にこにこ、ニコニコさせていただきます。

◆藤村吉隆君…日曜日の昼に家でひつつみを食べたあと激しい下痢に襲われ、朝までベッドとトイレの往復でした。どうやら前日父親がしめじだと言って採ってきたキノコが原因のようで、調べてみるとクサウラベニタケ (通称一本シメジ) という典型的な毒キノコでした。

危なく家族全員プラス休日出勤の従業員共々新聞に載るところでしたが、その後3日間の断酒、断食で体力は落ちたものの、体調はむしろ良くなりましたのでニコニコします。皆様もくれぐれもお気をつけください。

●メイクアップ

- 地区=掛上・金沢・諏訪君。
- 水沢東R.C.=長澤君。
- 盛岡南R.C.=伴君。
- クラブ委員会=白石・海野・吉田(育)・畠山・長谷川(桂)・橋本・熊谷(隆)君

出席報告

会員数/77名

出席数/46名

出席率/61.33%

前々回/79.17%



プログラムのお知らせ

- ・10月12日(金) 第2回クラブアッセンブリー
- 18日(木) 秋の懇親会 (19日例会変更)
- 26日(金) 田中堯史ガバナー公式訪問
- ・11月2日(金) 卓話
- 9日(金) 卓話
- 16日(金) 卓話

●本号編集担当/吉田 幸一